

平成 27 年度第 1 回木曾岬町総合教育会議（議事録）

日 時 平成 27 年 10 月 30 日 午後 1 時 30 分開会

場 所 木曾岬町役場 2 階 会議室

出席者

（構成員） 町 長 加藤 隆

教育委員会

教 育 長 山北 哲

委 員 白木 修

委 員 藤井 由弘

委 員 加藤 和子

委 員 大橋 洋平

（構成員以外の出席者）

総務政策課長 森 清秀

教 育 課 長 白木 悟

教 育 課 水谷 昌之

宮前 博樹

総務政策課 中里真由美

協議事項 総合教育会議の設置について

教育「大綱」の策定について

将来を担う子どもの姿について（今後の教育の方向性について）

午後 1 時 3 0 分開会

【総務政策課長（森）】 どうも皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから第 1 回総合教育会議を開催させていただきます。

私、本日の司会をさせていただきます総務政策課の森と申します。事項書に従い進行してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

初めに、本日は初めての会議となりますので、この総合教育会議開催に至る経緯について説明させていただきます。

お手元に、「教育委員会制度、こう変わる」というチラシを配付させていただいておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

内容の方につきましては、既にご承知おきのことかと存じますが、平成27年の4月1日に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の概要を紹介したものでございます。

この度の法改正で大きく変わりましたのが、資料の左のページのポイント①教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置するというものでございます。

そして、もう一つの大きな改革が、右のページのポイント③、全ての地方公共団体に総合教育会議を設置するという事項でございます。右の資料の中どころ、太い矢印の先に記載がありますように、この会議は、首長が招集し、会議の構成員は首長と教育委員会の皆様というようになっております。

また、この会議の目的でございますが、教育行政の大綱を策定すること、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策に関すること、児童・生徒の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置などについて協議、調整を行うこととなります。首長が教育行政に果たす役割や責任が明確になること、また、首長と教育委員会が協議、調整をすることによりまして、教育施策の方向を共有することとなり、一致して施策の執行ができることとなります。

別に、この会議の諸規程を定めましたものが、木曾岬町総合教育会議設置要綱でございます。別紙で配付しておりますので、お目通しください。今後の会議につきましては、この要綱に従い行われることとなります。内容は、申しあげました会議の目的や構成員、会議の招集及び学識経験者等の意見聴取等に関する事項となっております。

この協議会の設置の経緯につきましては以上でございます。

それでは、ただいまから第1回総合教育会議の開催をさせていただきます。

開会に当たりまして、町長より、ご挨拶並びに教育大綱に対する考え方について申し上げます。

町長、よろしく申し上げます。

【加藤町長】 改めまして、皆さん、こんにちは。

今日は木曾岬町の第1回総合教育会議を開催させていただきました。教育委員会の皆さん方には、ご出席いただき誠にありがとうございます。また、教育委員の皆さん方には、平素木曾岬町の教育振興、また発展のために多大なるご尽力をいただいておりますこと、

改めて感謝と敬意を述べさせていただきます。本当にありがとうございます。

10月1日に、木曾岬町におきましても新たな教育委員会制度に移行したところでございますが、教育委員長として長らくお勤めをいただき、この10月からは職務代理者となりました、白木教育委員には、長年にわたり当町の教育委員として、また教育委員長として教育の重責を担っていただきまして、誠に長い間ご苦様でございました。その長きにわたる功績が認められ、この度、文部科学大臣表彰を授与されましたことは、誠にめでたく、心からお祝いを申し上げる次第でございます。誠におめでとうでございます。

教育委員長として教育行政の中で先頭に立ち、重責を担っていただきまいました白木委員には、引き続き当町の教育委員として、また職務代理者として今後とも引き続きのご尽力を賜りたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

さて、木曾岬町の教育委員会制度、新たに移行後も、山北教育長に改めて新しく新教育長としてその重責を担っていただくことに致したところでございますので、各教育委員におかれましてもよろしく願いを申し上げたいと思っております。

この総合教育会議を通じて、木曾岬町の教育振興について、教育委員会の皆さん方とこうした機会を持って意見交換を深め、そして、当町の教育に向けての思いをお互いが共有できる有意義な会議にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げます。

総合教育会議を開催するに当たりまして、これまで教育委員会事務局と準備のための会議をたびたび重ね、私の教育に対する思い、あるいは理念というものをその都度お伝えさせていただいたところでございますが、平成23年の3月に、教育委員会におきまして「木曾岬町教育振興基本計画」が策定されました。その中間年に当たる今年度、後期プランが策定をされたところでございますが、後期プランの総論には、「“生きる力”をそなえ 創造力に満ち溢れた 豊かな心をはぐくむ」という理念や、個々の基本方針につきましては、私の教育に対する思いや考え方というものが十分に盛り込まれ、記述されているところでございます。私は常に国づくりは人づくりからだと、そんな思いを持っており、機会あるごとに子どもは親の宝であると同時に、町の大切な宝であるということを申し上げてきているところでございます。教養を高め、人間性や知性を磨いて、生きる力と思いやり、支え合う豊かな心を育む人づくりこそが私の願いであり、目指すところであり、木曾岬町の町民憲章の精神、理念にも通ずるところでございます。また今、町が進めております第5次総合計画にも掲げているところでございますので、ご理解のほどを改めていただきたい

と思っております。

国は、教育振興基本計画が策定されている場合には、この計画をもって大綱とすることができるとの考え方を示していることから、木曾岬町の教育における基本的な方向性につきましては、木曾岬町教育振興基本計画、いわゆるトマッピー教育プランの後期プランの総論部分を教育大綱としていきたいと考えておりますので、ご理解のほどを賜りたいと思います。

以上のことを冒頭に申し上げまして挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

【総務政策課長（森）】 どうもありがとうございました。

では、ここで、先ほど町長が述べましたように、大綱に当たります「木曾岬町教育振興基本計画【後期プラン】、総論部分について教育委員会事務局より説明をお願いします。

【教育課（水谷）】 それでは、失礼をいたします。

お手元に「トマッピー教育プラン」の資料としまして、総論の部分を提示させていただきます。

現在、各論も含めまして協議を重ねておりますが、先ほど言っていたいただきましたように総論の部分ということで、総論の部分としましては、この計画の策定に当たってということで、その趣旨、位置づけというところから、基本理念、そして基本方針、そして町の教育の実態という内容を書かせていただいております。

それでは、3ページのほうをご覧くださいますと、そこに基本理念がございます。先ほど町長の方からも説明がありましたが、10月1日の教育委員会の折、この方向性ということで確認をとったところでございます。改めて紹介をさせていただくと、「“生きる力”をそなえ 創造力に満ち溢れた 豊かな心をはぐくむ 木曾岬の教育」というものでございます。これは、先ほどもご説明いただきましたが、23年度に策定をしました「トマッピー教育プラン」にも、「“生きる力”をそなえた木曾岬っ子」というようにあります。また、さらに国のほうから25年に発行された教育振興基本計画の第2期というものに、「創造」という言葉が出てきております。これは新しい価値を見出していく、そんな力というように紹介されております。

木曾岬町におきましても、生きる力を備え、そこに新たな価値を創造していく力に満ちあふれた、そんな子供たち、そして、町長もおっしゃっていただきましたが、総合計画には、豊かな心を育むまちづくりということがあります。そのことを踏まえて、「豊かな心を

はぐくむ 木曾岬の教育」ということで、これからの5年間の教育をこの方向で進めていきたいというように捉えております。

そして、めくっていただきまして、基本方針といたしましては、特に今日ここでお伝えさせていただくのは、1番「夢に向かいチャレンジする 輝く木曾岬っ子の育成」でございます。これは、いわゆる今、私どもが学校教育を通じて子供たちの育成に努めておりますが、その子供たちを育成していくに当たって大事にしたいキーワードでございます。夢、将来への希望、先ほどもありましたが、新たな価値を見出していく、そんな力、それを持って夢に向かいしっかり一人一人がチャレンジしていく、その一人一人が輝く木曾岬っ子をぜひ育成していきたいという思いから、このような方向性で学校教育、就学前教育等を進めていきたいと考えております。

そして、2番ですが、「地域に根ざした 学びの輪がひろがる 木曾岬のまちづくり」、先ほどお伝えした子どもたちが地域に根ざし、地域での学びを一人一人広げながら、豊かな木曾岬のまちをつくっていくという方向性で、この2つの方針を持って今後5年間の教育に当たっていききたいというものでございます。

簡単ではございますが、このような形で現在方針をつくらせていただいております。これから各論ということで細かく具体的な案の検討を現在教育委員会のほうで進めております。そして27年度末にはこれを策定し、28年度から実行していきたいと考えております。

【総務政策課長（森）】 ありがとうございます。

先ほど紹介がございましたが、委員の皆様におかれましては、この大綱の取り扱いにつきまして何かご質問、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

では、次に、協議事項に入らせていただきます。

本日協議いただきますのは、今後の教育の方向性を検討いただくということから、将来を担う子供たちの姿をテーマに意見交換をお願いしたいと思います。

町長、よろしく願いいたします。

【加藤町長】 それでは、私のほうから進めさせていただきますが、先ほども申し上げたところでございますが、私は常日頃から、教育を考えるときには、将来の国、あるいは県、市町の担い手となる人づくりというのは人材育成が非常に大切だということがやはりお互いに共通する思いであろうと思っております。将来を担う人づくりとしては、木曾岬町の町民憲章にその理念を掲げており、その実現のために、教育委員会では教育振興基本

計画に基づいて意図的、計画的に取り組んでいただいているところでございます。

また、木曾岬町としては、平成25年3月に第5次の総合計画を策定し、そこに重要な5つのまちづくりの方針の柱を掲げております。そのうちの1つに、「豊かな心をはぐくむ人づくり」を掲げているところでございまして、その実現に向けて教育委員会ともども取り組んできているところでございます。将来を担う人づくりを進める上で、現状から見えてきている課題、それを解決するための施策などについて教育委員会の皆様方とともに意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、ひとつ忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、何なりとよろしくお願いいたします。どうもかしこまって向かい合っるといことですが、向かい合っということがあまり不得手でございますので恐縮ですが、気楽にどなたかからでも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。

加藤委員。

【加藤教育委員】 個人的に考えているのは、この検討はとてもすばらしくて、子供としては、郷土に誇りを持って仲間たちに思いやりを持ち、知力、体力を蓄えたたくましい子どもに木曾岬の子は育ててほしいと思っております。

その上で、今まで町長さんには、ICTをはじめ環境整備を、ほかの市町に負けないくらい考えていただいて、今回の小学生の学力検査でも、とてもよい結果となり、一概にそれだけとは言えないかもしれないが、やっぱりそうやってきたことがよかったのではないかと思います。これから木曾岬の子どももだんだん少なくなり、先生等が減らされる傾向にあるのではないかと思いますので、そのところ、今まで同様に町のほうで補強していただけるとありがたいなと思っております。

【加藤町長】 それは、先生とか教員の配置のことについてということかな。

【加藤教育委員】 それは、講師さんとか、英語の特別の講師さんとか専門家の方、そういう方はやはり県の方からは決まった方しか来ていただけないと思っておりますので、そういうところを少しお願いしたいなと思っております。

【加藤町長】 ありがとうございます。

教育環境というか、環境整備、特に学校教育環境については私も力いっぱい重きを置いて整備をさせていただき、また、教育委員会事務局の方から、あるいは学校現場の方からの声も聞かせていただきながら、少なくとも他の地域、他の市町に劣ることはない、むしろ進んでいる、まさっているというような自負は持たせていただいておりますが、これは

私の思いもそうですが、さかのぼって白木村長さん、岡村町長さんの時代から、子どもはまだ子供を育てるころでしたけれども、当時の小学校や中学校のPTAの人たちや、学校の先生、教頭先生あたりが、木曾岬さんは非常にうらやましい、他の市町に比べて非常に充実している、そして先んじた整備を図っていただいているということをうらやましく言われたことを今でも覚えているのですが、それは私になってからも学校教育環境の整備はしっかりとやっていこうという思いでやってきていますし、ICTのことも然りですが、やはりともに人を育てる、教える先生、あるいはそういったことについては当然十分な配置は考えていかなければならないし、もう一つは、これから特色のある人づくり、これも私は大事ではないかなと。今、加藤委員さんがおっしゃってみえるのはそういったことも含めたことと思いますが、私もそんなことを思っていますし、現実特に外国語についても一生懸命熱心にやっていただく先生も入っていただいておりますので、これからもそういった形で特色のある教育も1つだと思っていますので、そういった積極的なご意見がありましたらお聞かせをいただいて、教育委員会と一緒に取り組ませていただきたいと思います。ありがとうございます。

【白木教育委員】 先ほども加藤委員さんからも言われたことに関連しておりますが、木曾岬町は、幼稚園からいろいろありますが、小学校1校、中学校1校ということで、ほとんど9年間同じメンバーで学習するという地域的なことになっています。それを今まで生かして小学校、中学校と連携し合い教育をしてきました。

けれども、これだけ子供が少なくなってくると、やはり将来的には9年制ということを考えていただきたいなというように思っております。多分そのようになると思いますし、そうすると、建物が2つですので、1つというわけにいかないのです、その辺の移動とかそういう関係、それから、子どもたちをどうしようにするかというような、考え方も教育委員会の方であると思いますが、町長さんの方からも、その辺の予算削減という形で先生の移動とか子どもの移動等あるかもしれませんが、そういう関係のところを配慮していただきたいと思います。私はもともと、これはできると思うのですが、将来木曾岬で、6・3制じゃなくて5・4ぐらいにして、中学校の人数をもう少し増やしていけば、クラブ活動とかそういうものもできるのではないかと考えています。またそれに先駆けて、6年生が町の行事とかクラブ活動の体験とか、そういうのにもずっと関わらせていくと将来的に9年制の学校になるというように思っていますので、その辺のところ予算等いろんなことがかかってくると思いますし、県との関係もあると思いますが、町としてお願いしたいと

思っています。ありがとうございました。

【加藤町長】 ありがとうございます。

白木委員さんから、木曾岬の場合は小中1校で、今までは人口増で、生徒数もむしろもう1校追加というほどの規模で、そういう時代もありました。当時、岡村村長さんで、60年代に入ったころか、昭和50年代の後半でしたが、村長室へ伺ったら、「加藤君、小学校をもう一校つくらなければならないようになった」と、どうも具体的に描いてみえるようなお話を言われました。ちょうど予算というか、団体の補助金のお願いに行った折でしたが、翌年、同じような時期に伺ったら、「いや、加藤君、去年私は、小学校をもう一校と言っていたけれども、よくよくもう一度調査をしたら、今がピークだ、もう数年したら人口減、そして子どもも減っていく」というようなことで思いとどまり、今ある部屋を最大限活用し、足りない時にはプレハブでもしのげるというようなことで、方向転換されました。

今振り返ってみると、幼稚園、保育園も増え、確か1園、2園、3園、幼稚園を含めて4園まで行きました。それが今、中部と南部の2園。しかし、これも子どもさんたちの人口推移を見ていると、1園、あるいはそういったことも視野に、教育委員会や担当のほうで協議をいただいておりますが、近々議会のほうにも方針をお示しさせていただきたいと思っております。しかし白木委員さんがおっしゃったように、小中学校についても当然そういったことを念頭に置いてこれから考えていかなければならない、というよりも具体的に考える時期に来ていると思いますので、またそのような協議の中で委員さん方から積極的な、建設的なご意見をいただいて、どういう形が木曾岬町の将来にとっていいのかということもありますが、おそらく白木委員さんがおっしゃられたことが意を尽くされており、そういった方向に進んでいく議論の中でよりいい形をとっていきたいということで、私自身もより深く周りの、他の事例を見ながら検討を皆さんと一緒にさせていただきたいと、そんな思いでありますので、またよろしく願いいたします。

どうでしょうかね。

藤井さん。

【藤井教育委員】 木曾岬町の歴史を見ても、歴史的な偉大な人物が輩出されたとか、伝統あるお城とかお寺とか、そういうものが特別にあるわけでもなく、いわゆるどこにでもあるような平凡なというか、そういう農村地帯であると思います。これは言いかえれば、過去にしがらみがなく変な上下関係もなく、みんなが自由に平等に生きられるま

ちになる可能性が非常に大きいと思うのです。そのときに考えるのは、それでも何か核をつくっていかないとみんなが集まりにくいのではないかと。今度の新庁舎は1つのいい核になると思うのですが、そのほかに教育的にいくと、学校に人々、地域の皆さんの目を向けていただくような施策というか、方法を少しずつでも考えていけたらと思っておりますので、特に今、保護者の方、今回の小学校の学力テストが非常にレベルが高くて誇りに思っているのですが、そういうものを維持していくためにも学校と保護者、家庭との連絡を密接にするというか、保護者の方に学校へ来ていただく機会を増やしていきたい、増やしてってもらいたい。せめて一月に1度ぐらいは保護者の方に学校へ出向いていただき子どもの状態を見ていただければ、子どもも真剣に勉強するようになるし、いじめとかそういう問題についても、親御さんが見ていけば、ちょっと変わったことがあればわかるというように、学校に来ていただく機会を増やしていただきたいと思っています。最低でも月に1回。また、このごろ保護者の人の休みや、働き方が変わってきていますので、月曜日にやったり水曜日にやったり金曜日にやったり、そういう具合にどの曜日かには参加できるような、行政のほうの人員配置の都合もあるかもしれませんが、毎月やるときは曜日を変えてやっていただくとか、また、その中で子供と一緒に親子で1つの勉強に取り組んだり、歌を歌ったりというようなことを取り入れて、学校があるという思い出が、大きくなって木曾岬はいいところだったなという愛着につながると思っていますので、そういう学校と家庭のパイプを太くするような施策を考えていただきたいなと思っています。

【加藤町長】 ありがとうございます。

本来、やっぱり子どもを育てる教育というのは、もう学校、先生だけにとというのは、私は基本的に間違っていると思っています。やはり学校も家庭も地域、まち、それぞれが思いを1つにしてやっていかないと私は教育の効果、成果というのは上がってこないのだろうと。子どもさんは親御さんの宝であると同時にまちの宝だというのはそんな思いから思っているわけですが、今、藤井委員さんがおっしゃったように、やはり学校と親御さんとの関係、それをもっと頻繁にというか、なるべく学校に親御さんが活動を通して参画していただける、あるいは情報なりお互いの情報等を共有できるような場を積極的につくっていき、子どもさんの教育環境をより向上させていこうということが1つの木曾岬の子育て、人づくりの形として、他の地域にない、他の学校にない、そういうものをつくっていくことが、育ったときに、自分たちがこういう学校でこういう育ち方をしたなという思い、木曾岬の木曾岬っ子という誇りでもあり自信でもありということにつながっていくようなお

考えからのご意見だと思うのですが、私も非常にいいことだと思います。具体的にはまた教育委員会のほうでそのあたりはよく研究していただいて、どういう形がよりいいのか、またご意見をいただきたいと思っています。ありがとうございます。

どうでしょう、それぞれ意見がありますが。

大橋委員さん。

【大橋教育委員】 加藤さん、白木さん、藤井さんがすてきなすばらしい案を出してくださったので、なかなか。例えば白木委員さんがおっしゃった6・3制を5・4制、そこまできなくても、もっと交流を、いわゆる先生方の交流というか、具体的には、私、早ければ早いほどいいと思っているのです。どういうことかと言いますと、例えば中学で習うようなことを小6や小5って学べるだろうし、もしかしたら小1、小2のことを幼稚園も学べるのではないか。それはなぜかという、今はもう、いわゆるITの時代でみんなスマホを持っていますから。昔の、自分もそうですが、加藤町長さんの時代と全然違うんですよ。ということは、小学生も情報量をすごく持っていますし、もしかしたら幼稚園児も持っているかもしれない。そうだったら、早目早目に前倒して教えていっていいのではないのかという思いはあるのです。

そうすると、なかなか制度を変えるのは難しい、いろんなハードルがあると思います。だったら、小学校の先生がちょっと幼稚園で教えるとか、中学校の先生が小学校で教える。でも、人手がとても少ないということは私も聞いていますので、そうだったら臨時の人。ほんとうに行政に疎いので済みません。でも、加藤町長さん、忌憚のない意見を言ってくれということなので言わせてもらいますが、そういうことであったり、あるいは、もっと言ったら、中学生が小学校で教える、小学生が幼稚園で教える、ここってほんとうにいい意味で小さいまちだし、小学校も中学校も1個しかないの、そういう思い切ったこともできるのではないかなというように思っているのですよ。そうすると、もちろんいわゆる教育において、テストの点だけではないと思うのですが、でも、そういうことも含めてうまくいっている自治体の例も参考にしながら、でも、木曾岬のオリジナルもオリジナリティーも出していいんじゃないか、きっと動きやすいと思うのです。そういうことを今思っていました。

豊かな心を育むという、これはすごく心打たれるフレーズなんですね。でも、育むってすごく自分も好きな言葉なのですが、何か育むのか育ませるのか、ちょっと自動詞か他動詞かわかりにくい言葉でもありますので、言葉を変えるという意味じゃないですよ、あえ

て自分は今、これを育てるというように言いかえてみたのですね。豊かな心をやっぱり育てる木曾岬の教育だと思うのです、豊かな心が育つじゃなくて。というのは、なかなかそんなの、自分もそうでしたけど、幾ら自主的、能動的にやれと言われたって、幼稚園児、小学生、中学生、うちの息子みたいな高校生でもなかなか自主的に育つて難しいので、やっぱり周りの、それこそ学校の先生方であったり親であったり、地域の大人であったり、そういう人たちが水や光となって育てるべきだと思うのです。植物に例えるならば。

そうすると、皆さんも実感していらっしゃると思うのですが、子供って先生の言うことは聞くのですが、なかなか親の言うこと、大人の言うことはあまり聞かないんですよね。でも、親のやること、大人のやることは真似をします。

【加藤町長】 どきっとしますね。

【大橋教育委員】 どきっとします。いいことも悪いことも真似をすることだと思うのですよ。

そうすると、やっぱり大人たちも教育する側ばかりじゃなくて、教育を受けるというか、学ぶ機会も大切じゃないか。藤井さんがおっしゃったような、親たちも学校に行く、もちろんそれもそうだし、もっと、ほんとうに繰り返しますけど行政に疎いので、突拍子もないことを言います。木曾岬って小学校1個、中学校1個、おそらく今後の人口動態を見ていたら、それが複数になるとは思えないのです。でも、親も学ぶ機会が必要、だからといって、でも、なかなか木曾岬町立の高校はつくれないと思うのです。でも、弥富にも高校があるし、桑名にも高校というのがあるし、だったら、済みません、ほんとうに大学ぐらい誘致したらどうなのって。この辺って大学って四日市か名古屋までないと思います。そうすると、親世代も学ぶ機会があったり、何かそういうほんとうにほかの自治体でやらない、やれないようなことも、もちろんそれは加藤町長さんはじめ行政に携わっている皆さんが考えていただけることだとは思っていますので、自分はもうほんとうに勝手放題を言いますが、そういう何か、あり得ないよなというようなことでもやっていけるのが、もしかしたら木曾岬の長所でもあるんじゃないかというふうに私は考えています。

【加藤町長】 ありがとうございます。

小さいまち、僕はもう自慢は木曾岬町、トマトやお米やノリやいろんなおいしいものがいっぱいある、これも自慢だけれども、人柄、土地柄ということ、どこでも公の場でも私は、木曾岬の自慢は非常に純で温かくて、そういう土地柄、人柄だということを申し上げているのですが、それが木曾岬のよさでもあるし魅力でもある。ただ、人口規模が小さいですから、残念ながら小学校、中学校1校でずっといくと、例えばほかの市町のように、

幾つかの小学校の子供たちが1つの中学校で一緒になって、だから、新たな人たちと新たな中でもまれると、新たな出会いというよりもむしろ知らない人たちと一緒にやっていくということを経験せずに社会人、高校に行けばまた変わりますが、それは、小さな規模の学校であるよさはあるけれども、他のまちの子供たちが経験してきたことがうちの子供たちは経験しないということがあるので、僕は非常に、それは痛んでいます。でも、どうしても現実としては難しい。

しかし、交流の機会をつくっていく、他の学校と、あるいは他の地域のというようなことで、体験学習だとかそういうことも、回数は少ないですけど、あるいはいろんな大会とか行事に子供たちがそういったところへ出て、ほかの学校の人たち、ほかの市町の子供たちと一緒に遊ぶだとか、あるいはお互いに競い合うだとかしながらもまれながら育っていくことも大事、教育にも必要だと思うのです。それを木曾岬の場合どうやって、育むとうたっていますけど、機会をつくっていくかというのはこれからの大きな課題ではないかなと思います。それが高校だとか大学というのはちょっとまた大きな話だなと思っていましたが、考えてみたら隣はほとんどそうですね。私たちの時代にはなかった高校がどんどんどんどんできてきました。昔の、もう少し東へ行くと、地区ごとに小学校ができてきたね、人口が急増した地域なんか。そういった子どもたちは幸せなのかというと、僕はそうでもないと思うので、やっぱり木曾岬は木曾岬っ子のよさを生かしていくべきだろうなと思うけれども、外へ出たときにそこでほかの子供さんたちときちっと友達として、あるいはお互いに一緒に取り組んでいけるような、そういうことを身につけさせていくことがもう一つは大事だなと思っています。今、大橋委員さんがおっしゃっていただいたことは非常にこれから木曾岬にとっては大事なことだと思いますが、具体的にどのような方法がとれるかということはまた一緒に、お知恵をおかりしたいなと思います。ありがとうございます。

それぞれいろいろ、私にとっては心洗われるような思いで聞かせていただくようなご意見をいただいてきたところですが、教育長、何かどうでしょう。

【山北教育長】 今、それぞれ4名の委員の方がほんとうになるほどと思われることを言っていただきましたけれども、常々町長さんは、子供はまちの宝で、そして、まちづくりというのは人づくりからということもおっしゃって、私も全くそれは異論がなく、今日の協議事項の切り口にあるように、将来を担う子供というのは、姿を描いてみますと、教育委員会としては、これまでずっと木曾岬の子どもにつけたい力は何かということをや

と基本方針に入れながら取り組んできており、今日に来ています。後期版を策定して、先ほど理念も記述し、こういう人に育てたい、夢を持ってチャレンジすると、そういうことを挙げたのですが、それでも極論を申すと、義務教育の中で、中学校を卒業していく一人一人の子どもに最低限やっぱり力をつけてやることというのは、我々、学校側、あるいは教育委員会、親としての責務だと思うのですね。

例えば具体的に言いますと、一人一人の子供たちが、難しい言葉で言うと自己実現と言いますけれども、目標とか夢に向かって進んでいってそれを実現していけるような、そういうような自己実現ができるような学力と成長を保障してやるということが最低限だと思うのですね。それは学校と保護者にとっては最大の僕は責任だと思います。それを支える行政、あるいは地域というのはそれを信用していくと、そういうことで考えていったときに、じゃ、今の木曾岬の子供たちは、中学校を卒業していくときにどういう状況なのかというと、それにほぼ近くまで到達しておる子もいれば、まだまだちょっとほんとうに十分支援できないまま送り出しているなという子もいるのですね。

そういうようなことをここ数年、学力調査、あるいは学習状況調査をやって、木曾岬の子どもの様子をずっと分析したものは町内にもお知らせし、保護者の皆さんにもお知らせし、議員さんにもお知らせしてきているのですが、そんな中で特に気になる課題というのが四、五点あって、1つが全国的に落ちるのが読書習慣です。それと学習習慣、特に今、土日の学習量の低さというのはほんとうに恥ずかしいような状況になっていると。あとテレビとかゲームとかスマホとか、そういうものの利活の状況がとても多い。今日もこの会議に入る前に、指導主事さんのほうから、実は今週の『週刊新潮』の最新号にスマホの使用で脳が活動低下するというようなことが書かれていて、うちの子たち、こんなにスマホをよくやっていたら脳の活動が低下するのではないのかなということ。まだ詳しく目通しはしていないのですが、そういうようなこともありました。この2つは、要はテレビやゲームやスマホをやる時間が多ければ、学習時間が少なくて本を読む時間が少ないということですね。

それから、もう一つ気になるのは、自分によいところがあるかという問いかけに対して、木曾岬の子たちは肯定的な答えが全国的に少ない状況にあります。それは自尊心がやや低いということですかね。もう少し突っ込んでいくと、やろうとか、自主性、主体性、意欲がやや少ない。

それと、もう一つが基本的な生活習慣、たとえば言うならば早寝、早起き、朝ご飯、そ

の外に「子育て8つの指針」にも述べておりますけれども、そういうようなものが身についていない子というのは増えてきているのですね。

こういうようなことがここ5年間ずっとやってきて、それを解決するためにさまざまなことを学校や教育委員会でも啓発したり、取り組んでいただいているのだけど、今なお改善されていない状況があるので。木曾岬としては僕は早く基本的な力をつけて、子供たちに生きる力、確かな活用できる力をつけたいという願いでずっとやっているのだけれども、それがなかなかうまく進まない。

でも、今年の6年生に限っては非常にいい結果が出ました。校長先生に、なぜそんなにいい結果が出たのかなということをお聞きしていくと、3つ言われます。1つは、今年の子の傾向は今までの子と比べて本をよく読んでいるというのですね。それから、2つ目はスマホとかそういうことをしている時間がやっぱり少ない。3つ目は、これはもう町長さんにほんとうに感謝申し上げているのですが、町で独自につけていただいている講師さんで、学力補充に充てる時間を支援している先生を入れさせていただいているのですが、その効果が3つとも大きいかなということ言われます。

そういうようなことを考えていきますと、これまでずっと取り組んできたけれども、じゃあ、その取り組みがまずかったのかというと、やっぱりそんな取り組みは必要なんです。もっと突き詰めて、指導主事さんとここ3日間ぐらい話してきている中で、やはりそれに向かっていく手法なり制度をもう少ししっかり上げたことをやればもう少し効果が出てくるのではないかということ。そこで、今日、この場でこんなことができないかなという思いで申し上げるんですけれども、基本的な生活、学習、読書も含めて、そういう習慣を何とか木曾岬独特な手法でも構わないのでつけていかれないか。もう一つが、子どもの意欲を喚起するような何かのやっぱり手を打っていけないか、こういうことをしていくことで、子供たちの学ぶ意欲が出てきて確かな学力が身について、それをベースにしながら夢に向かってチャレンジする木曾岬の子が育って行って、町長さんが切り口とされている将来を担う木曾岬の子供たち、あるいは青年に育っていくのではないだろうかというようなことを思っております。

くしくも大橋委員さんが言われましたけれども、もっと大人が学び大人がかかわるといような、そういう仕掛けというものはやっているようでやっていない。これはPTAの会長さんあたりも、これから校長さんを通じてお話をしていくかなという思いで、次回の教育委員会ではある程度具体的なことを検討させていただきながら考えているのですが、

木曾岬町のPTAの活動は、保護者が集まられて、保護者と子供とともに遊びながら親睦を深めていくということがメインでずっとやってきていますが、それとあわせて、やっぱりPTAの研修として位置づけていきながら、例えば、家庭で子供たちがテレビを見ない、本を読む、決められた時間には学習をするというようなことをどうやったら我が子に返して我が子をきちっと育て上げて学校へ送り込むことができるんだろかということ、それぞれの発達の段階に応じて学年のPTAで話し合っているながら検証して、うまくいった事例を例えばPTAの広報誌に出していただきながらやっていく。そして、つまずいたら、ある専門家が来てPTAの研修としてお話を聞くとか、そういう仕掛けを、これは例えばですけれども、いろんなところで仕掛けをしていくことで、単なる机上の空論ではなくて、動きとしてやっていくということがこれから定着させていくことだと。それが小さなあちこちで波になると町民の運動として根づいていくのではないかと。そうすると将来を担う子供たちを育てるある意味での木曾岬の風土が醸成されて、子供たちが大きくなり大人になったときに、自分の子供を育てていく中で、僕らのときも、帰ってきたらすぐにちゃんと勉強して本も読んだぞと。

くしくもこれは福井で、我々が行って、ほんとうにもう福井はそれかなと思って帰ってきたのですけれども、何も家庭でごくごく当たり前でそういうことがされていると。そういうようなことがごくごく木曾岬でずっとされてくるようになれば、そういうような気持ちでそこまで育ってきた子供というのは、もうそこで今やっているような教育をやっている、ずっとやっぱり心にしみていくように、大橋委員さんが言われたように、水や光を得て植物が成長するように僕は子供が育っていくようになると思うのです。

そういうようなことを保護者、あるいは地域、あるいは行政、あるいは学校がそれぞれ主体となって何ができるのかということを考えていただくようお願いというか、仕掛けというと失礼になりますけど、そういうことをしていきながら土壌をつくっていくということをしていかないと。たまたま小学校が非常に今回いい成績をとって、教育委員さんも私もほんとうにうれしくて、もっとほかへ吹聴したくなるような状況がありますよね。けれども、これを吹聴できないのは、来年どうなるかということが心配だからなのですよね。

そんなことで、何とかそれぞれの主体でということ、それを動かしていく中で、講師をお願いしたり、あるいは環境整備をするための、例えばこれからは電子黒板に対になるものとしてタブレットが導入されてきますけれども、金食い板なんですね、実は。そういうようなことというのは、木曾岬の子供は少ないし、それだけ突っ込んでやっっていけばこ

うなるのだというようなことを、絵を描きながらオール木曾岬で育てていくという風土をつくっていかないと、僕は絶対だめだと思うのですが。そんなことでやってきたのですが、現実としては今、そういう厳しい状況があります。

ただ、いい状況もたくさんありまして、先週の土曜日に実はJAXAの方が来ていただいて、ほんとうは宇宙飛行士を思っていたのですが、宇宙飛行士は何年か先にといいうことで。まずは参加していただいた保護者の方の意見をずっと見ているのですが、これを読ませていただくと、最初は難しかったけれども、ほんとうに引き込まれていったと、これは小学校の子供にもっと聞かせてもらえなかったのかとか、いろんなことが書かれております。これは木曾岬で大学をつくってそういう専門家がたくさんいればいいんですけども、つくれない場合でも、こういうように木曾岬に必要な講師の方たちをよんで、定期的に機会を持って研修をしていただいて、町民の方にも聞いていただくという仕掛けはやっていく必要はあろうかと思えます。

これはここずっと数年続けておりまして、中学校でやっているこれは、子供たちの将来の夢、本物に出会うということで、自分がその道へ進むためにはどんなことをしていったらいいのかなということで、そういう仕掛けをやっているんですけども、たまたま2人の子供が、この方に直接いろいろなメール等で連絡をとりながら教えてもらうことはできませんかという要望を出して、この方からオーケーが来たんですね。オーケーが来てそういうことを始めるような形で、まさに夢に向かって一步を踏み出したと。そういうことで、ほんとうにそこで自分が進もうとするものが見い出せれば、それは当然、大橋委員がいつも言われる意欲につながっていくことになるのだと思うのです。だから、一遍にはいかないけれども、やっぱりやっていることを粘り強く、それぞれのところでじわじわやるということを木曾岬のよさとしてやっていかないと、一步やっぱり前へ踏み出すことはできないというのが率直な思いであります。

ちょっと長くなりましたけれども。

【加藤町長】 いえいえ、ありがとうございます。

子供たちにそういった機会をつくっていくというのは、スポーツ選手でもオリンピック選手でもそうだけれども、誰々にサインを、例えば王さんにサインをもらったとか、長嶋にサインをもらったのがというのがきっかけで、野球選手などですよ。そういったスーパースターに接したり、見たことによって、子ども心で自分も挑戦しようって、だから、そういう宇宙飛行士の場合でもそうですね。例えば木曾岬の出身で、スーパースターとい

うか、素晴らしい方が多分出てみえて、その人たちが木曾岬へ、ふるさとへ帰ってきていて、子どもたちに接する機会をつくってもらおうという、そういうのも非常にいいことですね。

やっぱり何よりそれぞれ皆さんのご意見を聞かせていただいて、ほんとうに思いは一緒だなと、そんなふうに非常に心強く、またありがたく聞かせていただきました。それぞれ各委員さん方からご意見をいただきましたけど、また違った角度でのご意見等、ありましたら。

【白木教育委員】 今、僕もずっと思っているのですが、福井も行きましたし、いろいろと見てきて、家庭学習というのか習慣というのか、そういうことも教育長が言われましたように、ほんとうに重要だと思うのです。よく教育委員会でも話が出るのですが、僕らの時代というのか、僕らの親の時代というのか、その時代は学校で、教育は学校の先生に任せておけばというところがあって、それも先生にとってはいいのかもわかりませんが、そんな時代はもうとっくに過ぎたという考えで、まだ木曾岬の親御さん、どのぐらいの親御さんとかはちょっとわかりませんが、学校に任せておけばいいわというようなところがよそに比べてまだまだ残っているように思うのです。それはほんとうに僕は間違っていると思っているのです。だから、極端な話、箸の持ち方から全部学校で教えることはない話で、今学校でやることもたくさんある中で、やっぱり家庭でしっかりやる、教えるということもしっかりやらないと学力にもついていけないし勉強にもついていけないというところがあるので、特に地域がよく言われるのですが、町という地域ではなくて、子供たちの周りの地域の学力というのか何か教育力というのが落ちておるような気がして。ほんとうに、今まで僕も子ども会もいろいろやってきたのですが、子供というのは、自分の親じゃなくて他人さんというとおかしいですけど、その人たちと接する機会が多ければ多いほどやっぱり子どもって育つのだなというように僕はいつも常々思っているものです。だから、やっぱり子供は地域、家庭ももちろん大事ですが、そういうことでほかの人と接する機会も与えていくというのは、木曾岬の場合はわりと行事というのがあるというのか、少ないと思うのですね。だから、そういうこともやっぱり地域で子供を育てるといふ力を地域はつけていかないといけないと思う。具体的なことはないのですがそれにはどうしたらいいかということも考えるところはあって、やっぱり地域で育てないといけないと思うところがあるのですね。

もう一つ、今年、小学校6年生の学力が良かったということで、いろいろなところで話

に出るのですが、僕は思うのですが、今まで、教育長も言われたけど、今年だけかもわからないよとか意見はあるのですが、僕はそうは思っていない。今までにやってきたことがやっぱり多少なりとも効果が出てきたと僕は思っているのです。これはやっぱり今、学校の先生も忙しいいろいろなことで大変だと思うので、教育委員会に指導主事さんが2人見えてやっていただいているという点がものすごくよいことだと思います。今まで、僕が教育委員に採用になったときは、わりと行政の方が学校関係のこともやっていたのですが、やっぱり指導主事さんが2人来ていただいているというところで大変力強いというように思っております。しかしこれも将来的にどうなるかわかりませんので、ぜひその辺のところを教育長さんのほうにお願いして、要員確保というような感じでお願いしたいというように思っています。

確かに今、ものすごくやることとか、仕掛けることがいっぱいあって、そのようなことを事務局と教育委員会で考えてやっていかないと、とてもやっていけないように思っていますので、その辺のところをまた配慮していただきたいと思います。また、教育事務所ができるようなことも聞いておりましたけれども、そればかりじゃなく、今までどおりの派遣の先生をこちらに配置するというのも続けていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【加藤町長】 ありがとうございます。

それぞれの意見を。1つは、学校だけじゃなく家庭、親御さん、勉強とか学ぶことも大事だということと、もう一つは、地域の人たちがどう子供たちを見守り育てていただけるかということですが、僕はよく言うのだけど、昔は、自分のところの孫とか子供じゃなしに、隣近所のおじいちゃん、おばあちゃんが、学校の行き帰りや友達と遊んでいる中でいたずらしたり、けんかしたり、あるいはよその畑へ入ったりすると、「何をやっておるんだ、こらっ」と叱ってくれたものでした。しかし今、叱れないわね。これは、地域ぐるみでの子育てができない、あるいは世代間の隔たりができてしまったものだから、本来親じゃなく周りの大人の人たちが子供たちを見守るといふか、育ててくれる大きな役割があったのが、今、阻害されてしまっていることは、もうずいぶん前から感じていて、非常に残念なことだと思っています。地区のコミュニティーもだんだんだんだんと薄らいできていて、あそこのじいちゃん、あるいはどこの孫さんということも知らないような状況になってきている。昔、僕らのころは、みんなどこのおじいちゃん、あるいは畑へ行ってどこかのスイカをとかあったら、叱ってくれたわね。今はもうそれこそ、声をかけように

も、変なおじさんに声をかけられたとか叱られたとかいって、子どもが家へ帰って行って親に報告して、親御さんが飛び出てきて逆に怒られるくらいです。我が子を叱ってくれたらむしろお礼を言ってほしいと思うくらいだけれど、そういった社会にもうなっていないでしょう。これはほんとうにできればもう一度そういった社会なり地域に戻していけるといいのかなと思います。

これは大人ができることだと思うけれども、特に親御さんの自分の子供に対してのあれが変わったと思う。だから、学校の先生に対してもそうでしょう、これは。だから僕はそういう意味で、親御さんの教育というのはもう一遍ここでしっかりやっていくことが非常に大事だなということを感じておりますし、白木委員さんもそのような角度からのご意見だったと思うのです。もう一つは、教育委員会なり指導主事のことも含めておっしゃって見えましたけど、これもただ、つい最近になって、県が来年度に向けて教育事務所だとか、あるいは指導主事さんの配置のことについての、多分方針はほぼ固まってきておるだろうと思うのですが、まだ正式には発表がないのですが、これは私も非常に興味を持っていますし、何か地域や市町によってアンバランスなことがずっと、教育事務所が廃止されてからそういった状況が続いていたということも含めて、私はおかしいと申し上げたのですが、県も、復活という言葉が当たるのか、これからの教育事務所の体制をもう一度とっていこうということで、これは学力向上という名のもとに三重県もそのようなことの一環として取り組みされるようですので、私としても非常に興味を持っていますし、県の方向とできればうまく歩調を合わせながら、しっかりと充実していきたいなと思っていますので、またよろしくお願ひしたいと思っています。

どうでしょうかね。せっかくです。

【加藤教育委員】 子供の生活リズムというのは大事だと思っていて、やっぱり中学校までいくとなかなかつけられなくて、保育園や小学生のときにつけてあげられたらそのままあとはいけると思うのですが、家庭によって生活習慣というか、仕事のにも夜働いていたりする家庭もあると思いますので、子供が多少そのような生活に流されちゃうという形跡があると思うのですが、休みの日などの夕方、「6時になったら帰りましょう」という放送を今、木曾岬町はやっていますよね。あれはちょっと恥ずかしいような感じだけれども、すごくいいことだと思うのですね。小学校でも中学校でも、ああ、そういう町のかなという感じで、例えば小学生でも幼稚園の子でも、細かいことは家庭でもやっていたかと思っていますが、何時には起きましょうとか、何時には寝ましょうみたいなこ

とを全部はやれないと思うけれども、全体的に先生とか学校、幼稚園から親御さんにやっていただければ、スタートと最後がある程度いけば、その中は何とかスムーズに行くのではないかなと思います。

それと、ちょっと話が違うのですが、これから図書館ができますよね。そして、前に研修にも行かせてもらっていたのですが、やはり専門家の館長さんがいるところはノウハウがかなりしっかりしていて、考えやバイタリティーもすごいものがあるって感心させられることが多くありました。木曾岬にもそういう人が入っていただけるような、予算的とか、可能であればお願いしたいと。

【教育長】 この辺は、また別にゆっくりと考えていけばと思います。

実は町長さんが、町村会で聞いたのでここへ行ってきたらどうかということで、下條でしたか、森さんや教育課長も一緒に、下條へ行き、図書館を見させてもらいました。その図書館の館長さんは、教育委員会のどなたかが兼ねており、やはりそこへはそこで雇われた司書さんがいましたが、その司書さんがすごくやる気を出されてしっかりやってみえたので、非常に遜色ないような形でやっていたと思います。

【白木教育委員】 ただ、加藤さんが言われるように、これから町で雇っていただくような司書さんがそういう方だったらいいのですが、同じ司書の資格を持っているけれども、そういうような状況だと、加藤さんが言われるようにもう少し上からきちっと大所高所というのが必要と思います。しかし、これだけの木曾岬町の財政の中で館長も置いて司書も置いてというような無理は言えないので、少なくともずっとお願いしてきたのは、司書さんともう一人その人を助けるような、資格は持っていなくてもいいので、本の大好きな人と、その二人で当面は回していただくことでよりよい図書館運営ができないかなというようなことを活性化委員会の中ではお話をさせてもらっていますけれども。

町長さんが館長を雇うと言われていたので、ちょっとだけ話を。

【加藤町長】 図書館のことは、皆さん非常に期待もしていただいているし、逆に不安も持っていただいている人もあると思うのですが、私は図書館をつくるのが目的ではないのだから、どういう図書館にしていきたいのか、皆さんがそれをどう利用とか活かしていきたいのか、そちらのほうが大事だと思っています。いろいろな事例が、それぞれ特色ある図書館運営をしてみえる市町もあるでしょうから、そういったことをよく勉強してその上で、何よりも木曾岬の人たちがどんな図書館を望んでいるのか。そういった思いを持った人たちに図書館にかかわっていただくこと、図書館を建設する前からかかわって

いただき、そしてその人たちの思いを形にあらわしていくということで、大型施設の建設構想の点から、教育委員会、教育長にはお願いをしています。

そこで、私は図書館だけじゃない、どんなことをなし遂げるにも人、どんなことでもそう。だから、僕は人を育てることが全てだし、歴史でも物語っているでしょう。新しい時代が生まれてくるときには、その時代の前の時代にしっかりと育った人たちが新しい時代をつくってきた。まちだってそうです。だから、そこにしっかりとした子育てなり次代を担う人づくりをしてあれば、必ずその地域やそのまちは期待の持てる、あるいは伸びていく地域にもまちにもなっていくということで、やはり一番大事なことはそこに住む人たちだろうし、今、経済的な豊かさだけでは人はほんとうの充足感はないのだから、やはり心の豊かさが持てるようにということが大事で、小さくても貧しくても、希望なり光があれば豊かになれるのだから、そういう人づくりをしていくことだと思っています。

その1つの拠点となるのが図書館だと思っていますから、よく今どき本を読むかと、あるいはそんなものはもう情報としてとれるのだとおっしゃってみえますが、読み書き、そろばんを忘れたら絶対だめだと、僕は思っています。例えば今、土曜日にもう一回勉強をやるとういうように変わってきたでしょう。その前はどうかだったかと言うたら、日本はひとり教育だった。世界はどんどんどんどん上がるのに、日本の学力は下がっていったでしょう。これではいけないと。でも、その中でも頑張っている、あるいは一生懸命頑張っている人たちもあつたはずですが、全体として世の中がそういう方向に行った。しかし、ちょっと待てよと、これではいけないということで気がついて、またそういうように戻した。つい昨日、中国が子育てを1人から2人というように、大転換しましたね。だから、それも僕は大事なことだと思う。時代が変わってきたら、それに合うようにやっぱり持っていかなければ。それは行政であり、議員さんたちや行政にかかわる職員もそうだし、教育であれば教育委員会の委員さん方や、事務局や学校を預かる先生方や、そういった人たちが常にそういう思いを持っていないと。つくることだけに走ってしまったら僕はだめだと思う。

だから、第一は学校環境、施設整備についてはしっかりやってきている。そして、あとは学校の先生じゃないと思う。私は親御さん、家庭、それから地域。ここがどうも僕は希薄になってきた、あるいは責任が向こうへ行っているような風潮に思えてしょうがないので、まず、できることはPTAで親御さんたちも一緒になって、学力を上げるためではなく、子どもをどう育てていったらよいかという観点から、やっぱり親御さんにはしっかり

と学校の先生たちと一緒に育てていただきたいなど、そのような環境づくりもしていけないといけない。図書館のことについてはやはり僕は人、何かといっても成すには人だと思っていますので、教育委員会の委員にお願いしていますが、限られた予算の中で、また、人口規模も小さく、子供さんたちや図書に関心を持っていただける人たちがどれだけあるかということもあり、喚起していかなければならないので、機会をつくれるようにしていくことも、図書館を1つの拠点、きっかけにということを教育委員会のほうでも、今活性化委員会というのを立ち上げてやっていただいているのですが、そういったことに私は参画してもらいたい。

なぜそれを僕は教育長に申し上げたかということ、下條のことも言いましたけど、福島、矢祭町、合併問題のときに町長さんが異を唱えて、我がまちは単独でいくのだと宣言された、矢祭町の根本町長だったか、この人はすごかった。ただ単に単独でいこう、自治はそんな国から押しつけられるものではないということやられたが、そうじゃない。図書館のことについてもすごかった。図書を買わなかった。すると全国から図書が送られてきた。それを親御さんや子どもたちが、仕分けして、親子で例えばこの本はこの本棚、ここへ置こうと、子どもたちが飾る。そうすると図書館から離れても、ああ、俺は、自分にあそこへあの本を、自分が興味があった本をあそこへ置いたな。やっぱり1回や2回は足を運ぶでしょう、読む気になるでしょう。かかわったら、やっぱり自分の思いが絶対入っているから、次につながるのですよ。

だから、いろんなことを新しく企画したり、新しく事業を展開しようというときでも、そこにかかわった人たちは責任だけではなく、やはり思いが込められておるから、完成しからのことに対しても非常に積極的にかかわっていただける。だからそういう進め方というか取り組み方で図書館も進めていただけると、より多くの人たちに図書に対して関心を高めてもらえる。だから図書館をつくる前からそういう形をとってほしいと教育委員会にはお願いしているところで、ぜひ私は期待していますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

どうぞ。

【藤井教育委員】 その図書館の話ですが、木曾岬は農村ということで、今まで競争して上へ行くというよりも、共同してみんなが同じでやればいいと。だから、この子ができなかつたら僕もできなくてもいい、私も同じというような生き方をしていたと思います。ただ、今、町長が言われるように時代も変わってきて、もうそういう時代ではないし、こ

れから変化をしていこうと思うと、基本がわかっているだけではだめなので、応用する力が必要だと。それなら応用する力は何から学ぶかという、読書をして自分の知らない世界、バーチャルの世界からいろんな、こういうこともあるんだ、ああいうこともあるんだとってそういうものを体験できる、疑似体験ができるようなことが大事だろうと思います。前に大橋委員が言われましたが、全ては国語力が基本だと、国語をしっかりやれば応用問題にも展開していくことができるという。ですから、今度図書館ができるという話がありますので、特に小学校も近いし、何か図書館と子どもをつないで、1人が読み始めれば、それなら横並びの性格なら、私も読もう、僕も読もうと、みんながそういう具合にいいように展開していくのではないかなと思いますので、図書館のほうにはちょっと人とお金のほうを回していただきますようお願いしたいと思っております。

【加藤町長】 ありがとうございます。

藤井委員さん、最初におっしゃられた木曾岬の子どもたちというか、人となりですね。だから私が、木曾岬の自慢は人柄、土地柄と言ったのにはそこもあります。あまり抜き出でとか、俺が、私がとって人の前へ立って、先頭を切ってというのではないでしょう。あまりそういうことを望まないというか、そういう人が育たないというか、そういう土地柄だと思うのです。でも、こんなことを言って申しわけないのですが、隣の長島、昨日も長島の方と土地改良関係で一緒にずっと話していたのですが、長島の方は、男の方も女性の方もものすごく個性のある、骨のあるというか。「スーパーおばちゃん」、あの方たちでもそうです。すごいでしょう。だけど、この人は教育にもものすごくいい。例えばJAさん、要は農協女性部の部長さんで全国の会長さんになられたような人で、スーパーおばちゃんと僕は言っているのだけど、農業委員会に女性を登用しなさいと運動された方でもある。非常にすごい人が隣にみえる、でも、男の方もすごい人たちがみえる。だから、やっぱり人柄、土地柄かなと。木曾岬はあまりそういったことを好まない。昔、随分前に、木曾岬にもすごいスーパーウーマン、おばちゃんがみえたけれども、ああいった人はなかなか出てこないでしょう。非常にお互いに仲よしでいこうと。だから、藤井さんが言われるように、いい面もあるけど、ちょっと残念な、ある意味では積極性がとか、リーダーシップをとれる、そういう風潮はなかなか育たない土地柄でもあるのかなと思うのですが、それは大事なこと、1つ木曾岬のよさでもあるけれど、僕はむしろマイナスの部分であると。これからの時代、やはりそういった人がどんどん出てきてもらえるようになっていかなければいけないので、大事なことだと思っておりますし、今図書館のことも引き合いに出

されましたけど、僕は図書館運営のことは、先ほども申しあげたので割愛しますが、ぜひ地域の人たちや親御さんや学校の先生方と、いわゆるPTAをしっかりと子供たちをどう育てていくかというような、そういうまちづくりというか、風土のまちにしていってほしいなと思います。そうすると親御さんの気持ちも変わってくるのではと思いますね。それが大事だと思うのですが。そこにつながっていくことが僕はいろんな相乗効果を生むのではないかと考えていますので、また具体的にどういう形がいいのか、例えば図書館と学校でも、せっかくつくるんだったらそれをより子どもたちが図書にかかわれるような機会をつくっていくかというのもそうですし、そこに親御さんが入っていくということも1つだし。いろんな展開が考えられるので、図書館の完成に向けて1つ具体的に考えていただきたいと思っています。ありがとうございます。

どうでしょうかね。

【大橋教育委員】 もうほんとうに今、皆さんがおっしゃっていてそのとおりだというように聞かせてもらいました。今聞かせてもらっている中で、1つ読書習慣について思うところがあるので言わせていただきます。ほんとうに読書習慣というのは大事といえば大事で、そのとおりだと思います。でも、これも振り返ると、自分たちが子どものころとは随分環境が変わっていて、自分たちが子どものころは、やはり本しかなかったと思う。もちろんゲームもないし、いわゆるスマートフォンとかタブレットで本を読むなんてことはあり得なかったから、必ず紙の本だったと思います。でも、今はもうそんな時代ではなくて、タブレットはある、スマートフォンはある。うちの子も言うのですが「そんな本なんて読まなくても、これで読めるよ」って。でも、私はスマートフォンやタブレットの本というのは紙の本と違うところがあると思っていて、それは何かというと、寄り道ができないというか、すぐそこに行くのです、あれは。見たいところに行くし、もっと言うと、ちょっと話はずれますけど、電子辞書。例えばもう広辞苑や英語の辞書やほかの全部が、こんなちいさいのに入っている。でも、あれは単語を入れたら必ずそこにたどり着くし、ある意味、答えが出てくる。だけど、紙の辞書だったらばらばらめくって、なかなかそこへすぐには行けない、時間がかかる、手間暇かかる。この手間暇かかるというのが、やっぱり人間の成長には私は必要不可欠だと思っています。

【加藤町長】 うれしいことを言っていただけ。僕は、なぜそこに皆さんは気がつかないのかなと。

【大橋教育委員】 効率とか便利というのが、やはり人間にとっては、それはある意味

においては必要なことですが、特に読書であったり、もっと言うと学習も手間暇かけて苦労して学んだからこそ、読んだからこそ身につくのではないか。そうすると、やっぱり紙の本ありきと。でも、いわゆる日本の経済、ビジネスのあの人たちは、もうお金のためだけに機械をつかってゲーム機もつかって、売って売ってというので、どんどん低年齢化しているから向こうも入ってくるのですね。向こうのほうが早いから。そうすると、確かにスマートフォンは高校生、中学生はまだ少なく、小学生はあまり持っていないかもしれない、木曾岬の中で。でも、多分ゲーム機って、小学生はほとんど持っていると思います。それから、幼稚園児でも持っているかもしれません。

なので、それがやってくる前に紙のほうも、なかなか生まれた家庭全ての皆さんに、例えば毎年絵本を10冊送るなんていうのはこれはまたお金のかかり過ぎることだと思いますが、先ほどの話で図書館ができるということで、多分木曾岬町の図書館には本はあると思いますので、そうすると、ちょっとやらせですけど、毎月5冊強制的に貸し出すと。何かやっぱり、繰り返しますけど、自分たちのときにはほかにおもしろいことがなかったから本を読む、紙の本に行くのですが、今、もっとおもしろい、ゲームはやっぱり楽しいしおもしろいですが、そっちに行くと、これはまた人間って楽しいほうに流されるというか行っちゃうので。するとやっぱり習慣づけるというのは、子どもには失礼な言い方ですが、あまりわけがわからなくても、それが習慣づくとも本を手にとったりするのがもしかしたら幼稚園、小学校でできる。そうすると、あの機械が家庭に入ってくる前に本漬けにするというか、そういうのは必要というか、もうそれぐらいやってもいいのではないか。

確かにこれ、済みません、三重県教育委員会というか、文部科学省がそんなやらせではあかんよ、自主性を重んじてと言うかもしれませんが、それはそれでやってみないとわからないので。先ほどの福島の自治体の話が出ていましたが、もう文部科学省や三重県教育委員会は無視してでもやっているというぐらいで、それも何か木曾岬町の売りになるのではないかとこのように私は思います。

【加藤町長】 いいお話を聞かせていただきました。だから、読み書き、そろばんと昔から言いますが、そろばんだって今は電卓で一瞬にして答えを求められます。でも、今委員さんがおっしゃられたように、図書でいこうと思ったら、それは手間暇、時間がかかりますが、そのときの手間暇、時間が僕は絶対大事だと思う。そういったことを、例えばそろばんでもきちっとマスターした上で電卓をたたくとか、あるいはスマホでも何でも、やはりきちっとマスターした上でやっていくことならいいけど、そちらだけでいってしまう

と、僕はほんとうに能力が身につかないのではないかなと。答えだけを求めるだけは、駄目ですね。でも、それは人づくりとしてはちょっと違うのではないかなと思います。

そういったものをきちっとマスターした上で最新鋭のもので情報を得るというのはそれはそれで大いに結構なことだし、また、これからはどんどん科学も発達していく中でそれは必要なことだと思うのですが、まず人として人間として、身につけるための教育の環境づくりはしていかなければならない。そちらへ走るだけでは残念なことです。しかし、どうも親御さんもその傾向が強いのではないのかな。中にはそんな面倒くさいことと言われかもしれないけど、それが僕は人づくりだと思っています。

今いいお話をいただきましたけれども、私はどちらがいいということではなく、両方も大事だと思います。まず身につけることはそちらが先じゃないか、それが教育じゃないかなと私はそのように思っています。私の押しつけではいけません、私はそんなように感じています。

どうでしょう。こういう話になると延々とエンドレスとなってしまいますので。

【総務政策課長（森）】 心行くまで話していただいて結構ですが、次回の議題も残しておかないといけないので。もしよろしかったらこのあたりで。

【加藤町長】 どうでしょう。また、ここの続きは請うご期待ということで。皆さん方からほんとうに積極的に、またいいご意見やら、私自身も勉強させていただくような有意義な時間、意見をいただきました。第1回の総合教育会議、意見が出尽くしたということではなく、また次の機会を捉えていきたいと思っていますが。

それぞれ関連にご意見をいただきましてほんとうにありがとうございます。なかなか意見交換は尽きないところでございますが、時間も押してまいりましたので、このあたりで第1回会議の意見交換はひとまず締めくくらせていただきまして閉じたいと思っております。本日の会議では、それぞれ教育委員さんからほんとうに積極的な、また貴重なご意見をいただきました。ほんとうに有意義な会議とさせていただくことができました。誠にありがとうございました。

共通理解が図れましたことにつきましては、事務局において精査をさせていただいて、その実現に向けた施策展開を図っていきたくと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

今後の総合教育会議の開催につきましては、本日皆さん方からいただいたご意見を踏まえまして、教育委員会のほうでまた木曾岬町の教育振興基本計画、いわゆるトマッピーブ

ランの後期プランを作成いただいた後に、必要に応じて招集をさせていただきたいと、そのように考えているところでございますので、よろしくご理解のほどを賜りたいと思っております。

本日、私自身も非常に教育に対して心洗われる思いがいたしました。教育に対しての思いをお互いに深める、また、共有をさせていただけたと思っております。誠にありがとうございました。これをもちまして私のほうの進行は終わらせていただきます。

【総務政策課長（森）】 どうもありがとうございました。

初めての開催の会議でございましたが、長時間にわたりまして熱心に、また貴重なご意見を数多くいただきありがとうございました。

本日いただきました議題の内容については、十分に精査いたしまして、町長が申し上げたように、共通理解が図られたことにつきましては、町長部局といたしましても、教育委員会と連携を図りながら具体的な施策展開につながるよう努めてまいりたいというように考えてございます。

本日はご参加をいただきどうもありがとうございました。これにて木曾岬町第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

午後3時閉会